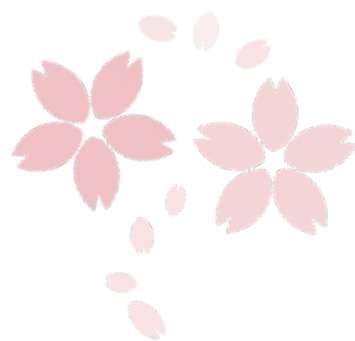




お知らせ

2019年春、たくさんの専門職の意見をいただき
これから手帳がバージョンアップします！
お薬手帳サイズの「わたしの想い」も仲間入りです♪
新年度に入りましたら『これから手帳New!』
について、ご紹介させていただきます！



contents

巻頭言	広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会 監事 藤井 紀子
活動報告	広島市牛田・早稲田地域包括支援センター
学びのページ	三次市福祉用具事業所連絡協議会 会長 山本 博一
特集ページ	(公社) 広島県理学療法士会 副会長 平石 勇次
わたしのまわりの	輝きさん 和光整形外科スポーツクリニック 主任 佐藤 誠亮
研修報告	中国ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会 現任者研修会

これから手帳
使ってみてね♡



イメージキャラクター
テルコちゃん

「地域包括支援センターに求められる役割」



広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会
監事 藤井 紀子

地域包括支援センターは国が推し進めている地域包括ケアシステムの重要な拠点の1つである。広島市中心部から北西にあり、広島市のベッタタウンとして開けた地にある高取北・安西地域包括支援センターの活動を中心に求められる役割を考えてみたい。

高取北・安西地域包括支援センターの圏域には約32,000人が居住し、高齢者数約10,000人、高齢化率は約30%で高齢者のみ世帯約3,000世帯で2中学校区・4小学校区の広さで以前からの集落と川を挟んで山にかけて開かれた大きな団地が複数存在する。

地域包括支援センターを受託するに当たり、私が所属する社会福祉法人は従来から受託していた在宅介護支援センターでの経験を生かして早く地域への周知と圏域全体の情報共有を図るために、4小学校区の代表者から成る相談協力員会議を年3回継続開催することにした。

地域包括支援センターに一番求められているのは「自分らしく住み慣れた地域で暮らし続けたい」と言うそれぞれの願いを後押しすることと思っている。

そのため、地域包括支援センターに必要なことは何かがあったときすぐ相談できる窓口と支援している側からの相談や依頼があったとき対応できるスキルが備わっていることであろう。

敷居の低い話し易い包括支援センターを目指してセンターに併設している地域交流スペースを利用して毎月1回「歌声喫茶」「ボール体操」を開きセンターに気軽に出入りしてもらえるしくみを作った。

自立へ向けたケアプランの作成や作成の支援も大切な仕事である。地域包括支援センターや職員には日々のレベルアップを目指す自覚が求められ、それぞれがセンター内外での研修にのぞんでいる。

また、さまざまな機関や地域団体との連携やつながりも重要である。

医療、福祉、介護の連携を推進するため医師会等と会議・研修会など重ね、地域包括支援センターではそこで学んだことを地域に向け普及、啓発することに努めている。

その他小学校区、町内会単位で地域ケア会議を開き顔の見える関係づくりを進めると共に、地域に出かけ社協、民児協、町内会、公民館、薬局などの組織と共に、サロンや介護予防の拠点づくりに取り組んでいる。介護予防拠点ではほとんどの所で100才体操が行われているが、それが定着してきた所から口腔ケアや低栄養予防の研修会を開いている。

広島市では一昨年からサロンや体操に参加する70才以上の方を対象に「いきいき活動ポイント事業」が始まったが、これが参加者の飛躍的な増加につながっている。

また、広島市では住み易い町となるための取組みのうち住民の互助活動の1つとして「高齢者地域支え合い事業」が推進されている。地域包括支援センターが事務局を担い、町内会、社協、民児協など地域住民が主体となって見守られることを了承した人の担当を決めて見守ると言うもので、見守られる人からは「安心できる」「よく声を掛けてもらえて嬉しい」などの声が聞かれる。何か異変があったとき早く発見できると同時に近隣のつながりやお互いに関心を持ち合う関係を作っていくことが出来る。

広島市内41地域包括支援センターで取組んでおりそれぞれのセンター内の小学校区毎に作られていくしくみは地域包括ケアシステムの土台となり得るものと思っている。

地域包括支援センターには、この地域に住んで良かったと皆さんに思ってもらえるような地域づくりに向け小さな取組みを1つずつ積み重ねることが求められていると思う。

活動 報告

各センターの取り組み、 見守りについて

広島市牛田・早稲田地域包括支援センター

「私には認知症の祖母がいる。祖母に一度頭を叩かれそうになったことがあり、その出来事から祖母が怖くなって、ほとんど目を合わせたりしなかった。講座を聞いて、記憶は全てなくなるわけじゃない、こちらが安心させてあげればいい、とたくさんのことを知った。祖母にあったら声をかけたい…。」

これは、中学生に認知症サポーター養成講座を受けてもらったときの感想です。牛田・早稲田地域包括支援センターでは、担当圏域にある3小学校、2中学校、1高校、2大学全てで毎年認知症サポーター養成講座を開催させて頂き、認知症を理解して下さる「味方」が増えるように活動しています。

学校での認知症サポーター養成講座を開催させて頂き10年以上がたちましたが、これだけ多くの学校で開催出来たのは、当センターの力だけではありませんでした。

そもそも学校でこの講座を開催することが出来たのは、広島市東区医師会の各学校への働きかけがあったからです。そして広島市東区役所からも後押しを頂き、広島市東区にある4つの地域包括支援センターが協働できたことも大きな要因でした。更には、毎年講座に呼んで下さる各学校の歴代の校長先生方や無償で来てくださる認知症アドバイザーの多大なご理解と協力がありました。

毎年学校で講座を開催させて頂いているのは、様々な方々との「つながり」があったからこそと感謝しています。この活動だけではなく、日頃の活動の色々な場面でも「つながり」の重要性と力強さを実感しています。

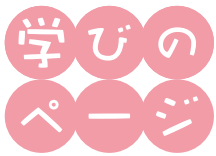
広島市では、いきいき百歳体操を地域住民主体で行う支援を地域包括支援センターと一緒にあって取り組んでおり、ここ2年で大きな広がりをみせています。当センター圏域でもこの2年間で20箇所取り組んでくださる団体がありました。この広がりの背景には、当センター職員の奔走もありましたが、地域住民の方々の口コミがありました。私達職員が知らないところで、同じ思いの「味方」が協力して下さっていたのです。

地域包括支援センターの活動は、医療・介護の専門職はもちろん、冒頭の感想を書いてくれた中学生や百歳体操を広めてくれた地域の方々のような「味方」を増やし、「つながり」を増やしていくことだと思っています。これまでは目の前の困っている高齢者の支援にばかり目を向けていました。しかし、私達の活動は様々な「味方」を増やすことでまだ出会ったことのない人の支援にもなることも重要だと思えます。

認知症サポーター養成講座を受けた中学生の母親から、「週末には自分の親の介護をする為に他県へ出かけて、子どもたちに何もしてやれなかった。見送る子どもは“いってらっしゃい”も言ってくれなかったのでいつも辛い気持ちで他県まで運転していた。でも、この講座を受けた子どもから、私の大変さを知ってもらい、“お母さんも大変なんだね、いってらっしゃい”と送り出してくれるようになり、それだけで涙がでるほどうれしかった」というエピソードを聞きました。

こんな風に私達の活動が知らない間に、回り回って知らない人たちの笑い顔を作っていたのなら、こんなにうれしいことはありません。今後もそんな些細なやりがいが増えるように活動に取り組みたいと思います。





「いつまでも地元で!!フレイル予防を行い、健康寿命を延ばそう」

三次市福祉用具事業所連絡協議会 会長 山本 博一

私共は広島県北部地域を中心に福祉用具貸与・販売・住宅改修を主事業として介護保険制度以降、地域に密着した業務を展開してまいりました。

現在、日本が抱えている問題の中でも、特に重要な課題であります「少子高齢化」が叫ばれている中、特に私共が住む山間地域は「高齢化社会」を乗り越えて、既に「超高齢社会」に突入しています。その流れとは逆行して医療・介護保険制度の給付の削減も改定の度に厳しくなっており、私共医療・介護従事事業所におきましても、あらゆる角度から組織の再編や経営の見直しをせまられている状況となっています。

現在私共が活動している備北地域では、地域包括ケアの推進のために、三次市や庄原市で医療や介護に従事している様々な職能団体(医師会や介護支援専門員協会、理学療法士協会等)が、多職種での連携をするための会議や研修会を以前から実施されており、福祉用具専門相談員も職能団体を結成して活動に参加して欲しいとのご意見をいただいていたいました。元々福祉用具の選定に当たっては、ご利用者様自身の状態やご希望だけでなく、主治医や理学療法士などの専門職の方々、さらには日常生活を支えるヘルパーやご、家族の方々のご意見や要望もうかがいながら実施しているため、多職種での連携については地域包括ケアが提唱される前から行っておりました。

その様な状況の中で、地元の事業所同士が単なるライバル関係で、いるだけではなく、ご利用者様には的確で、より良いサービスは提供できないと思い、色々な情報を共有しご利用者様の事を一番に考えるために、三次市の福祉用具貸与事業所4社が集まり「三次市福祉用具事業所連絡協議会」が発足致しました。

(有限会社岡田タンス店福祉部、ケアサービスぶどう、プロテア、株式会社ルピナス、計4社)

近年の老年医学会においても立証されておりますとおり、加齢に伴う様々な運動機能や認知機能が低下し、健全な状態と要介護状態との中間とされているプチフレイル「フレイル=心身の虚弱」の予防を各専門職、各サービス事業所の方々と協力して行い要介護状態にならないための勉強会、情報交換などを定期的に行う事も計画しております。

また、ここ数年、広島県においても日本福祉用具供給協会中国支部広島県ブロックが中心となって、年に1回福祉用具の展示会が行われていますが、私共のご利用者様からは「広島市で展示会が行われているが、三次からでは遠くて行くことが出来んのお〜。」といったこともうかがっています。隣の島根県では、以前から福祉用具の職能団体を中心となって、福祉用具の展示会や研修会を開催しています。地域に密着した事業所の団体としては、今後この様なイベントの開催も企画していきたいと考えております。

昨年は7月の豪雨災害で私ども連絡協議会加盟事業所も大変な被害を受け、未だに災害前の状態に回復することが出来ていない事業所もあります。その中でも地元の方、ボランティアの方等に復旧作業を手伝って頂きながら懸命に業務を行ってまいりました。ご利用者様からも「大変だったのお〜。」「何か手伝えることが有れば言いんさいよ。」等の励ましのお言葉を頂き、地元の方々の温かみを身をもって感じました。

この様な地元との繋がりを大切にし、いつまでも笑顔で皆様が地元で過ごせる様、個々の事業所ではなくご利用者様に関係するすべての事業所が多職種方々の連携チームとなり、より良いサービスの提供が出来る様に啓蒙活動を進めてまいります。

これからも「安心して地元に住み続けたい」という地域の方々のご要望に応えるべく「誠実・迅速対応・ご利用者様第一」を心掛け、4社がある意味において良きライバルとなり、また、団体となってより良いサービスの向上に努めて参りたく存じます。

特

集

地域と「理学療法士」および 「(公社)広島県理学療法士」活動

(公社) 広島県理学療法士会
副会長 平石 勇次

近年、皆様が暮らしている、また、働いておられる地域で、「理学療法士」が身近な存在になっていますか。団塊世代が75歳以上となる2025年問題を迎えるにあたり、「地域包括ケアシステム」の一翼を担うべく、「理学療法士」は、地域社会に貢献し始めています。

「理学療法」とは、病気やけが、加齢に伴う障がいにより運動機能が低下した状態の方に対し、温熱や電気、水、光線、そして運動などの物理的手段を用いて、運動機能の改善・維持を促す治療です。病気やけが、加齢により運動機能が低下すると、起き上がる、立ち上がる、歩く、階段を上がる、重たい荷物を持つなど、人が日々行っている基本的動作(以下、基本動作)が難しくなることがあります。基本動作が難しくなると、トイレに行けない、着替えができない、入浴できない、食事が摂れない、外出できないなど日常生活活動(ADL)が難しくなりますし、場合によっては、人生の質(QOL)にも関わってきます。一般的に、「外出するのがおっくうだ」とか「買い物が面倒だ」など、日常生活活動を行う能力が低下したことには気づきやすいのですが、その原因となる基本動作を行う機能が低下したことには気づきにくいものです。理学療法士は、基本動作を行う機能を評価し、日常生活活動にどのように影響しているのかを関連づけて考え、どのように関わったら基本動作や日常生活活動を一体的に改善できるかを提案することに長けています。基本動作を行う機能には、関節の硬さや筋力だけでなく、感覚や認知機能、心肺機能など多様で、これら全てに着目します。このような評価をもとに、運動や体操の提案、メタボリック・シンドロームやロコモティブ・シンドロームの予防、スポーツにおける障害予防、障害者スポーツへの関わり、福祉用具や住宅改修の相談も行うこともあります。



(公社)広島県理学療法士会は、地域包括ケアシステムの構築、推進に向けた活動として、その活動を担う人材の育成と紹介を行っています。日本理学療法士協会と連携し、「地域ケア会議」と「介護予防」の施策に重点を置いた「地域包括ケア推進リーダー」と「介護予防推進リーダー」という育成制度を設けています。「地域包括ケア推進リーダー」は、広島県で302名(平成30年12月)が取得し、市町の地域ケア会議等の出席に応じています。「介護予防推進リーダー」は、235名(平成30年12月)が取得し、市町の介護予防拠点作りに、広島県の地域リハビリテーション広域支援センターと連携しながら応じています。また、当会会員は、自ら所属する医療機関や介護保険事業所において「理学療法」を通じ、患者様やご利用者様が住み慣れた家や地域での生活を維持できるよう関わっています。地域のあらゆる場面で「理学療法士」が皆様と関われるよう日々研鑽しています。

広島県では昨年7月、集中豪雨による大変大きな被害を受け、多くの住民が避難所での生活を余儀なくされました。その際、問題になったのが、住民の健康維持、高齢者や障がい者の活動性低下です。避難所での生活がその後の生活に影響するのです。当会は、広島県や広島県大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(広島県JRAT)と連携し、住民の健康維持や活動性維持などに努めました。

地域において皆様に、「理学療法士」をより身近に感じていただけるようこれからも研鑽してまいります。日本理学療法士協会会員の平均年齢(平成30年3月)は、男性33.9歳、女性33.0歳と大変若く、勢いを感じていただける一方、まだまだ若い組織です。地域で関わらせていただいた際にはご指導ご助言のほどよろしくお願いいたします。



第8回 わたしのまわりの輝きさん

会員センターのまわりで輝いている方をテルコちゃんがご紹介します



輝きさん紹介メッセージ

佐藤さんに、ニックネームをつけるなら理学療法士の松岡修造がピッタリです！健康や理学療法に対して熱く信念を持っており、いつも元気に明るく爽やかな笑顔で子どもから高齢者まで大人気です。私たちも佐藤さんと一緒に楽しく仕事をさせてもらい、沢山のことを学んでいます。



広島市三和地域包括支援センター センター長 久保田 竜二

第8回を迎えた輝きさんは…
広島市佐伯区にある和光整形外科スポーツクリニック
主任 佐藤 誠亮 さんです♪
輝きの秘訣を探るべくインタビューにお答えいただきました！

質問1 佐藤さんにとって地域包括支援センターってどんな存在ですか？



私が所属している和光整形外科クリニックは、三和地域包括支援センターの圏域にあります。ご紹介いただいた久保田センター長さんとは、日ごろから協働させてもらっており、信頼していただいていることに感謝です。私にとって、地域包括支援センターは、リハビリ専門職と地域住民の方をつなぐ存在だと思っています。例えば、地域包括支援センターから、地域で中心的に活動されている方々の交流会等に呼んでいただき、広島市で普及啓発に取り組んでいる“いきいき100歳体操”(以下「体操」)についてのお話をさせてもらっています。そこで、「体操」の運動メニューのコツや運動継続の必要性についてお伝えする機会があることで、地域住民の方の理解が深まっていると感じています。

質問2 なぜ、理学療法士を目指されたのですか？また、理学療法士としての目標があれば教えてください。



26歳まで、ずっとバレーボール競技をしていました。高校生の時、肩を怪我してしまい、復帰を目指すなかで理学療法士の存在を知りました。怪我等で大好きなもの、生きがいを諦めることは、とても辛いことです。理学療法士は、そうならないようにするために医師とともに復帰へ向けたサポートを行います。復帰に向けたリハビリは、時に辛く、本当に復帰できるのかと強烈な不安に襲われて、負けそうになることもあります。そうした精神状態を意識しながら対応するよう、日々心がけています。目標と言えるかはわかりませんが、当院を選んで来てくださる患者さんが前向きにリハビリに取り組んでくださって、それぞれの目標を達成して笑顔とともにリハビリの卒業を迎えること、そして「ありがとう」の言葉をいただけることが目標です！

質問3 久保田センター長から「佐藤さんの笑顔がまぶしい！」との情報を頂きました。その輝きの源はなんでしょう？



とても、恥ずかしいですね…(*^^*)ですが、大変光栄です。患者さんからの「ありがとう」は働くパワーの源です。また、日々、やり甲斐のある仕事を与えてもらっているおかげです。地域との接点を作ってくださる地域包括支援センターの方々がいるからこそ、力を発揮できる場があると思っています。

質問4 最後に、地域住民の方々への熱いメッセージをお願いします！



和光整形外科クリニックでは、リハビリ三部門(外来リハビリ、通所リハビリ、訪問リハビリ)を備えて、みなさまの在宅生活をサポートします！「怪我をしてしまった…」「病後の弱った身体を放っておくのは不安」「運動してくださいと言われるがなにをすれば…？」などといったときに『困った時は和光に行けば大丈夫！』と頼っていただけるクリニックを目指して地域を支えていきたいと思っています！

和光整形外科クリニック (広島県広島市佐伯区八幡東2丁目28-8-7)



佐藤さん、ありがとうございました！私たち地域包括支援センターも、地域の皆様が笑顔になり、「ありがとう」の言葉がいただけるような地域づくりをしていきます。一緒に取り組んで行きましょう！



〔日時：平成31年1月17日～18日（2日間） 場所：アークホテル広島駅南〕

中国5県から、合計114人（鳥取県3人／島根県6人／岡山県17人／山口県8人／広島県80人）の方々にご参加いただきました！当日の様子と参加者の声を一部、ご紹介いたします！

1日目

講師 広島県地域包括ケア推進センター
作業療法士 望月マリ子 氏

テーマ

「自立支援にむけた介護予防ケアマネジメントに活かすICFの視点」



1日目の研修を受講した参加者の声

- 「視点がないと質問ができない」と言う講師の方の言葉が、1番印象に残りました。情報収集・課題分析(情報整理)力と質問力を高めるために、常にその原因や根拠を探求する気持ちでケアマネジメントを行いたいと思いました。
- マネジメントする中で、マイナス面(できないこと)に焦点を当ててしまいがちになっているが、プラス面(できること)に焦点を当てて本人のできること、している事を生かしながら、できる事を増やしたり、生きがいのある生活が送れると感じた。
- プラン作成時とても悩みます。私自身、cmの資格もなく、包括配属後、プラン作成をしなくてははいけなく困りました。(包括配属1年半)アセスメントに時間をかけ、本人の思いを聞けば聞くほど、これでいいのかと悩みます。今回の研修でアセスメント領域と現在の状況はその人の状態を的確に入れ、目標は本人の考えを一緒に考えて行く。試行錯誤しながら悩むことも必要なことだと思いました。
- 自立支援に向けた考え方や、大切なポイントがわかりやすく、とても勉強になり、今後の自立支援に活かしやすかったです。自立支援についての研修は何度か受講していますが、日頃の業務ではその人のできなくなっているところに目が行っていることに反省させられました。もっとできていることやしたいことを含めていかないといけないと強く感じました。ありがとうございました。
- 初めに言われた「包括職員も、その人の人的環境因子」という言葉で「私の利用者さんにプラスの因子なのだ」と感じました。今までのプランでは書いてなかった部分があり、分析力も弱かったので、関連付けた質問は行けるように頑張ります！！ 講義を受けて益々やる気になりました！！
- 課題分析するとき情報収集等が大切であることを学びました。ただ闇雲に話を聞くのではなく、1つの問題点に対し、他の部分で同じことで困っていないか話を広げていくことで、それぞれ要因が見えてくるのがわかりました。信頼関係を作りながら今後も問題解決ができるようないろいろな視点を持ちながら情報収集をしていこうと思います。
- ワークも交えながら自立支援に向けた計画を考えられたので、とても良い機会でした。自分自身まだ経験が浅く、自分の立てた計画で自立に繋がったという成功体験が少ないので、今日学んだことを活かして自信をつけたいです。それと、自立のために栄養状態を改善して、運動して、と言う正しいであろう方向は分かっても、本人さんがそれを望んでいない…問題視していなければなかなか現状は変わらないということもあると思います。そういうときには、本人が望むようにすればいいのか、なんとか説得・動機付けを促す必要があるのか、本人さんを目の前にして話をしているととても迷ってしまうことがあります。
- 行政なので自分がプランを立てる事はなく、ケアマネの方が立てられたものを見る事はあります。実際に自分が立てるとなると、講師の言われていることがいかに難しいかということがよくわかりました。今後はプランを見る視点が大いに変わると思います。



2日目

講師 金沢市地域包括支援センターとびうめ
センター長 中 恵美 氏

テーマ

「専門職と地域住民の連携をとおした地域ケア会議のすすめかた」

2日目の研修を受講した参加者の声

- 個への介入から地域ケア会議の開催まで、時系列で知ることができた。地域性があるため、同じ段階で働きかけることができるかどうかは難しいが、成功事例の一つとして意識をしながら地域へ働きかけていきたい。
- 集めた情報の点と点を先にしてつなげてみると見えてくるものは本人に対する支援だけではなく、その地域でどんなことができるだろうかと言う広い範囲での支援にもつながるので、1つの整理の方法としてエコマップは使えると思いました。

●なぜケア会議を開催するのか、この人からの情報収集が重要なのか…必要性は感じていても、いざ根拠を聞かれるとおそばに座ることも多いので、なぜ必要なのかしっかり根拠を伝えられるように、日々の業務でも心がけて仕事をしていきたいと改めて感じた。集めた情報をエコマップ、ジェノグラムへ落とし込む練習もしていきたい。

●事例の分析をする際、枠組みをエコマップ化する事で、わかりやすく整理できることがわかりました。エコマップ化すると見えていない情報が見えてくる！！ 関係性も見えてくる。総合相談をセンター内協議し、チームとして支援を行うことの必要性。地域からの情報が必要←→包括と地域との関わりを作っていくことの重要性を改めて確認できました。アセスメントが大事！！ 2日目もとてもわかりやすく参加できた講義でした。今後の業務に生かしていきます。ありがとうございました。

●ケア会議に向けての情報収集をどのようにしていくか、優先順位など考えながら業務に取り組んでいきたい。日頃の業務の中で地図上にエコマップでわかりやすく可視化するという事は中々できておらず、包括内、ケア会議内でも利用していくことができればいいと感じた。

●地域や会議を実施するまでの情報収集の方法や、その情報を可視化する方法、地域住民への働きかけ等を学ぶことができた。地域ケア会議での参加者選び(その状況ごとの)は大変と思った。包括センター、3職種の視点を充分生かせばいいと感じた。

●地域ケア会議(地域全体)と個別の会議の進め方があると思うが、まずは相談事例の中でスクリーニングすることや、事前に包括内で協議することで、より参加者の目的意識や今後の支援の協力へと結びつくと言う視点を持って進めて行きたい。生活しているということをお忘れず、地域の強みが引き出せるようになると良いと思う。

●基本の総合相談が重要であるとわかりました。

●気になる高齢者をサポートするために、民生委員や隣人、自治会長などと個別に情報収集することは今までにもありましたが、それらの方々を集めてみんなで共有し合う機会を設ける事はありませんでした。今回の研修で、そのような機会を設けるために包括内でどのような協議準備が必要なのか、持ち寄った情報をどのように可視化していけば良いのかなど、とても嬉しい視点を得ることができました。できることから1つずつ取り組んでいきたいと思います。また、包括の役割、包括職員の役割の意識をさらに強く持って業務に当たりたいと思います。

●具体的な事例を通して地域ケア会議について学ぶことができました。地域と専門職が1つの事例を共有、整備していくことで、支援の方向性が見え、地域の課題も見えてくると気づきました。包括は課題を解決するためにつながる相手の選定、自分のこととして捉えてもらえるような働きかけができると良いと思った。経験を重ねて、様々な事例に向き合っていきたいと思う。

情報交換会 参加者26人 研修委員5人

終了後には、本会研修委員と参加希望者による情報交換会を開催しました。来年度もどこかで開催予定ですので、ぜひご参加ください！

最後に、来年度研修会計画予定表をご紹介します！会員の皆様のご希望にそえる研修会となるよう研修委員会一同がんばります！



次年度研修計画予定表	
4月	自立支援多職種連携研修
5月	
6月	生活支援体制整備研修及び職員研修 (公開講座「西日本豪雨災害のふりかえり」)
7月	基礎研修
8月	現任研修
9月	
10月	リーダー研修①
11月	リーダー研修②
12月～3月	

研修参加者からお聞きした

次年度受たい研修について☆

- 精神疾患が進行し介入支援困難なケースの支援のポイント
- 介護サービス卒業の好事例、手法(コツ)
- 総合相談の分析について
- ジェノグラム、エコマップの書き方等

編集後記

広島県

地域包括・在宅介護支援センター協議会広報誌

- もしものための話し合い「もしバナゲーム」をご存知ですか？

驚いたことに、有名な大手ネット通販でも販売されてコメントもついている。

興味のある方は検索を

(荒木 和美)

- 職場内で「最近、広報誌が読みやすくなったね。」と声が聞こえてきました。

皆さんもそう思いませんか！？

(牧野 優子)